



利根保健生活協同組合 **利根中央病院**
発行人：糸賀 俊一

〒378-0053 沼田市東原新町1855番地1 TEL.0278-22-4321
ホームページ <http://www.tonehoken.or.jp/>

新病院における産婦人科のとりくみ

産婦人科医長 笠原 慶充

全国ならびに群馬県全体の産婦人科医師不足の影響もあり、当院の診療体制について、この間地域の皆様方にご心配をおかけする状況となってしまい心苦しく感じております。

来年度の診療体制はまだ未定ですが、今号では、現状の新病院における産婦人科のとりくみをご紹介します。



2階東病棟のスタッフ（前列右から3番目が笠原医師）

産婦人科 病棟

新病院の産婦人科病棟は、最上階6階です。個室率も高く、入院患者さんやご家族の皆さんがリラックスして入院生活を送れるよう配慮しました。リバーサイドの自然豊かな景色を眺められ、入院生活にも癒しや潤いをもたらしてくれると思います。

分娩に関しては、1つの部屋で陣痛（Labor）、分娩（Delivery）、回復（Recovery）まで、良質な医療環境と自宅にいるような安心感の中で出産できるLDR室を2室設けました。分娩後に状態が安定したら個室に移っていただくこととなります。

新生児対応では、急変時には小児科医・小児科病棟とも連携した迅速な対応ができます。また他科の専門診察もすぐに受けるこ

とができる総合病院の強みもあります。

婦人科対応としては、個室と大部屋を使い分けることにより十分なプライバシーと看護体制を保てるよう考慮し、家族ともリラックスして過ごせる設計となっております。

ラウンジも設けましたので、妊婦さん同士の交流や、面会の方々とゆっくり過ごせる空間としてご活用いただきたいと思います。

産婦人科 外来

外来はプライバシーに配慮し、一般エリアと区別しました。待ち時間を改善できるよう診察室を増やし、女性特有の悩みについて少しでも話しやすくなるレイアウトにしました。

妊婦健診では、現在も使用している“4Dエコー”の導入により胎児精査や妊娠中の異常の発見の精度向上と同時に、子宮内胎児の“3D画像”も見る事ができるようになり、妊婦さんやご家族の満足度も向上しております。



胎児の3D写真の一例

婦人科診療については、現在も群馬大学医学部附属病院産婦人科の准教授や講師らの支援により、外来診療および難易度の高い腹腔鏡や悪性疾患の手術についても、当院で対応可能となっております。新病院でもこうした体制を維持できるよう努力し、独自の医師確保もすすめながら、北毛地域の中核病院として、責務を全うできるよう努めてまいります。



LDR室のイメージ図

2014年度 利根中央病院

利根保健生協
創立60周年記念

きらめき祭

～感謝そして未来へ～

日時 10月19日(日)10:00～15:30

場所 利根中央病院（現病院） ※雨天決行

展示

★利根保健生協60年の歩み
★新病院建設 進捗案内

模擬店

★出店多数

抽選会

★豪華景品が当たる大抽選会！

ゆるキャラ

★沼田のマスコット『ぬっくん・まっくん・たっくん』が来るよ！

イベント案内

- 10:00～ 開会
- 10:20～ 餅つき大会
- 11:30～ 烈車戦隊 トッキョウジャーショー
- 12:20～ 新病院上棟祝い 餅投げ
- 13:00～ 生協創立60周年記念企画
- 14:20～ 烈車戦隊 トッキョウジャーショー
- ～15:30 閉会



©2014テレビ朝日・東映AG・東映

新病院の リハビリテーション室に ついて

リハビリ室 技士長

諸田 顕



現在の病院は築50年を超え、廊下や病室の面積は旧医療法に基づいているため十分な療養環境がとれていません。リハビリ室も同様で第1・第2リハビリ室、ST室と3カ所に分散され、スタッフの労働環境的に不都合だけでなく、患者さんにとっても分かりにくく、広さも不十分です。

新病院では、リハビリ室を1カ所に集約し、その面積は、約450平米と現在の約2倍の床面積になります。リハビリ室の各部屋は機能別に分化し、広いリハビリ室には新しいマシンを複数導入して、今まで以上に多くの患者様に運動して頂けるよう環境が整備されます。言語聴覚室も二部屋に増室します。住まいを想定してリハビリができる部屋も新設します。



また、痛みを抱えながら生活や仕事をしている患者様にも専門のスタッフが治療を行い、外来患者様もたくさん受け入れられるようにします。

リハビリスタッフは、回復期リハビリ病棟、在宅総合センターを含め40人以上に増やす予定です。寝たきりにならない様に、HCU(ハイケアユニット)に入院した高齢者も、医師や看護師と連携しながら離床をすすめます。一般病床に入院した高齢者も含めて、病気になる前からどのような生活を送っていたか把握し、病気の回復を診ながら安心して家に帰られるようにサポートします。お家の様子がわかるように、退院前に帰る家を訪問し、入院中から在宅を意識したリハビリサービスを提供します。

新病院は個室も多くなりますが、トイレやお風呂の整備も進みます。入院していても、病気で療養していても、ベッドから降りて排泄や入浴を行い、寝たきりにならない様に、リハビリ室だけでなく病室でも充実したリハビリができるようにします。

スタッフ一同、皆様の入院生活の安心を提供したいと考えておりますので、リハビリについて何か不安・疑問に感じる事がございましたら、お気軽にリハビリスタッフまでお声掛けください。

新病院建設進捗状況



新病院航空写真(南東より撮影)

写真提供:清水建設



▼内部工事先工区の健診センターの天井の様子です。電気、空調、医療ガス等の配管がギッシリと順序よく設置されています。
◀奥に見えるのはMRI室の壁です。鉛のボード貼りが間もなく始まります。